

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471501266		
法人名	特定非営利活動法人 ほんまち平安の家		
事業所名	グループホームほんまち平安の家		
所在地 (電話番号)	広島県福山市丸之内二丁目5番6号 (電話) 0849-28-7576		
評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(平成21年2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年10月25日		
ユニット数	1 ユニット	8人	
職員数	12人	常勤 4人,	非常勤 8人, 常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物形態	<input type="radio"/> 併設/単独	<input type="radio"/> 新築/改築
建物構造	木造り 地上2階建1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費	(日額)300円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 100円

(4) 利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	8人	男性	0人	女性	8人
要介護1	1人	要介護2	1人		
要介護3	4人	要介護4	1人		
要介護5	1人	要支援2	0人		
年齢	平均 89歳	最低	80歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西谷内科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームほんまち平安の家は、地域住民の協力のもと、広島県で初めて、NPO法人により開設されたホームです。地域の高齢者が安心して老いることのできる地域福祉の拠点となることをめざされており、地域との交流も活発に行われています。</p> <p>また、「個を大切に、ゆったりとした居心地のよい暮らしをさりげなく支援する」というホーム独自の理念を掲げ、利用者一人ひとりの普段と異なる小さな変化や何気ない言動に目を向け、思いを汲み取りながら、その人らしい暮らしを支援されています。</p> <p>管理者は、利用者のみならず職員の個性、よいところを見つけ、伸ばしていくことを心がけ、誰もが楽しく過ごせる場所になるように取り組まれています。</p> <p>さらに、ミーティングを頻繁に行い、職員のアイデアを積極的に取り入れることが、サービスの質の向上や職員一人ひとりの意識、資質の向上につながっています。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	<p>評価結果を前向きに捉え、改善につなげられています。前回評価では、運営推進会議を充実させることが課題となっていました。会議に地域全体を巻き込めるように積極的な働きかけが行われていました。</p>
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	<p>ホームの目標である「さりげない支援をする」を念頭に置き、自己評価を使って実践できているかどうかを確認されています。</p>
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	<p>家族、民生委員、町内会役員、地域包括支援センター職員、施設長などの参加を得て、2か月間に1回開催されています。会議では、ホームの活動報告のほか、成年後見制度の勉強会などが行われています。また、会議が地域とホームを密着にする糧となるよう取り組まれており、回覧や声かけなどで、積極的に地域住民の参加を呼びかけられています。さらに、親睦会を兼ねて開催するなどして、ホームに足を運んでもらうきっかけとなるように工夫されています。</p>
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	<p>日々の関わりを通して、家族との信頼関係を築かれており、家族が来訪時にケアの手助けをする場面もあります。家族の要求をミーティングで共有し、実行するように努めることで、苦情に発展しないよう取り組まれています。ホームには、意見箱も置かれていますが、気軽に立ち寄れるホームづくりを行い、できるだけ直接意見を言っていたるように取り組まれています。</p>
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	<p>ホームの理事が町内会長をされていることから、地域とのコミュニケーションも図りやすく、地域の一員として自然体で暮らせる環境があります。自治会に加入し、敬老会などの行事に参加したり、ボランティアを受け入れるなどして、積極的に交流されています。</p> <p>また、地域住民も参加できる講演会を企画するなど、住民が福祉に関心を持つための機会づくりも行われています。今後も職員の持つ専門知識や技術が地域に還元できるよう取り組んでいく方針を持っています。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「施設を開放し、コミュニティの核となる」「地域福祉の発展に寄与」という法人理念をもとに、地域の高齢者が安心して老いることのできる地域福祉の拠点となることをめざされています。 なお、法人理念をもとに「個を大切に、ゆったりとした居心地のよい暮らしをさりげなく支援する」というホーム独自の理念が掲げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭におき、会議や行事を企画することで共有されています。また、ミーティングを重要視されており、職員のアイデアを積極的に取り入れ、実践につなげる過程で、職員全員に理念が浸透し、気持ちを一つにできるように努められています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの理事が町内会長をされていることから、地域とのコミュニケーションも図りやすく、地域の一員として自然体で暮らせる環境があります。自治会に加入し、敬老会などの行事に参加したり、ボランティアを受け入れるなどして、積極的に交流されています。 また、地域住民も参加できる講演会を企画するなど、住民が福祉に関心を持つための機会づくりも行われています。今後も職員の持つ専門知識や技術が地域に還元できるよう取り組んでいく方針を持たれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームとしての具体的な目標を定め、定期的に振り返りが行われています。 今年の目標である「さりげない支援をする」を念頭に置き、自己評価を使って実践できているかどうかを確認されています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、町内会役員、地域包括支援センター職員、施設長などの参加を得て、2か月に1回開催されています。会議では、ホームの活動報告のほか、成年後見制度の勉強会などが行われています。 また、会議が地域とホームを密着にする糧となるよう取り組まれており、回覧や声かけなどで、積極的に地域住民の参加を呼びかけられています。さらに、親睦会を兼ねて開催するなどして、ホームに足を運んでもらうきっかけとなるように工夫されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に分からないことを相談するなどして、ホームの現状を知ってもらえるように取り組まれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪が頻繁にあるため、細やかに報告し、家族が安心感を持てるよう心がけておられます。また、法人の機関紙発行に合わせてホームだよりを作成されています。 今後は、一人ひとりのホームでの暮らしぶりや様子をミニレターにして、毎月、送ることを検討されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりを通して、家族との信頼関係を築かれており、家族が来訪時にケアの手助けをする場面もあります。家族の要求をミーティングで共有し、実行するように努めることで、苦情に発展しないように取り組まれています。ホームには、意見箱も置かれていますが、気軽に立ち寄れるホームづくりを行い、できるだけ直接意見を言っていたるように取り組まれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、退職はありますが、看護師などの専門職や経験者を採用することで、利用者が安心して暮らせるよう配慮されています。 また、管理者は、職員の個性、よいところを見つけ、伸ばしていくことを心がけ、楽しく働ける職場になるように取り組まれています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加されているほか、ターミナルケア、介護技術(清拭など)、ケアプランについてなど、具体的にテーマを定めた研修を月に1回実施されています。また、ケアカンファレンスと職員ミーティングの機会を別々につくり、職員一人ひとりの意見をサービスに反映することで、ホーム全体のスキルアップにつながるように配慮されています。		研修をさらに充実させることをめざされていますので、日々の職員一人ひとりの「学びたい」という思いや希望、疑問などを書き留め、それらを外部研修の参加や内部研修の内容につなげていかれることを提案します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人を運営する事業者間で、積極的な関わりを持たれており、地域のNPO法人が企画するイベントに参加するなどして、交流を深められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスなどを体験してもらい、ホームの雰囲気に馴染んでいただけるよう取り組まれています。 なお、ホームでイベントを企画するなどして、日頃からホームに来ていただけるような機会をつくられており、利用前から、馴染みの関係があったり、落ち着ける場所になっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の日々の生きがいを見い出し、したいことができるように支援されています。 利用者からの感謝の言葉や笑顔が、職員の働き甲斐や働く楽しさに繋がっており、お互いに支えあう関係となっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者の何気ない言動に目を向け、丁寧に雰囲気を見極め、思いを汲み取りながら、その人らしい暮らしを支援されています。また、ミーティングで、利用者一人ひとりのケアのあり方について話し合われています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回、医師、家族、職員でケアミーティングを開き、一人ひとりの状況に応じた介護計画を作成されています。 また、医師に助言を求める前に、あらかじめ職員間で課題について話し合い、共有しておくなど、スムーズに連携できるように工夫されています。医療との綿密な連携により、利用者や家族の安心感が得られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	普段と異なった言動や少しの変化に気づくように努め、現状に即した介護計画となるように、見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスやショートステイを受け入れ、柔軟に対応されています。 今後は、地域貢献を視野に入れ、地域の高齢者や障害者を一時的に預かるような場所にしていきたいという思いも持たれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とされています。かかりつけ医がホームの理事をしており、訪問も頻繁にあるため、綿密な連携が図られています。利用者が、かかりつけ医の訪問を待ちわびるなど、信頼関係も築かれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて、家族、職員が不安に思うことなどを、医師も含めて話し合いを重ね、それぞれの役割を明確にされています。現在は、流動的に変化する利用者の状況に合わせて臨機応変に対応されています。 なお、ホームのターミナルケアの取り組みは、「認知症の人を支えるケア(広島県認知症地域支援体制推進会議発行)」で、事例として紹介されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた話し方や声かけを心がけておられます。また、職員間で気づきを伝え合いながら、職員全員の意識を統一し、利用者のプライバシー保護に取り組まれています。 なお、利用者の生き様を尊重し、個別に対応していく方針を持っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日の利用者の思いに沿った対応を心がけておられます。また、職員が持つ理想のケアを提供することが、利用者にとって暮らしの管理になってしまわないよう意識して取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はすべてホームでつくられており、調理の際の匂いや音で利用者が時間の流れを感じることができます。利用者の高齢化に伴い、一緒に調理することが難しい現状がありますが、調理専用の職員を配置し、介護職員とは異なる視点で利用者に関わってもらうなど、家庭的な雰囲気を作り出す工夫がなされています。利用者は、それぞれのペースでゆっくりと食事を摂られていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が安全に、安心して入浴できる環境を整えることを第一に考え、職員体制などに考慮して、入浴の曜日や時間帯は、ほぼ決められています。また、無理強いをしないよう、言葉かけなどに配慮しながら、利用者の清潔保持に取り組まれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月ごとに、「手伝いをする」「歌を歌う」などの利用者一人ひとりの目標(生きがい)を立て、それらが達成できたか、毎日、振り返りをされています。「どのような時に、一番よい顔をされているか」など、言葉だけでなく表情からも利用者の「楽しみごと」を把握し、一人ひとりの楽しめることを生きがいにつなげるよう取り組まれています。また、利用者だけでなく、職員が楽しむことで、穏やかな暮らしを支援されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の調達には、主に宅配サービスを利用されていますが、持ち運びの可能な範囲で、利用者と一緒に近所のスーパーに買い出しに行くなど、目的を持って外出ができるように工夫されています。また、職員と利用者が、2人きりで手をつないで話しながら散歩するなどして、集団生活の中の息抜きや安心感につながるよう支援されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけず、利用者のいつもと異なる言動を細やかに把握し、申し送り共有するなどして、見守りを徹底し、安全に配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所に職員や理事が住んでいるため、災害時には、協力を求めることができ、安心感があります。今後は、散歩がてら利用者と一緒に避難場所の確認に行くなどして、さらに災害対策を強化していくことを検討されています。		今後は、可能な範囲で災害を想定したシュミレーションを行うなどして、いざという場合に職員が落ち着いて対応できるように、日頃から意識して取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成するほか、食事ミーティングを開き、現状に即した献立となるよう話し合われています。利用者の運動量とカロリーのバランスに配慮し、野菜の多いメニューに変更し、カロリーを抑えて量を増やしたり、1食分を2回に分けて提供するなどして、食べることの楽しさを残しつつ、利用者の健康を維持するよう工夫されています。また、食前、食後などの水分摂取も徹底して行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン、リビングは、家庭と同じような雰囲気となっています。見慣れたもの、使い慣れたものを大切にし、利用者の居心地のよさに配慮する一方で、食卓には、介護用の椅子を置き、安全にも配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具やなじみの写真などが持ち込まれています。また、利用者一人ひとりの居室担当を決め、衣替えなどにきめ細やかに対応しながら、家庭で暮らすのと同じように気持ちよく過ごせるよう配慮されています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ほんまち平安の家

評価年月日 2009年 3月 2日

記入年月日 2009年 2月 13日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 代表/管理者 氏名 土田 直子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所の理念の中に地域サービスが盛り込まれている ・施設を開放し、コミュニティの核となる ・地域福祉の発展に寄与		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関、ボードなど見えやすい所に掲示しており、ミーティングでも確認している ミーティングで具体的実践を話し合っている	○	具体的実践につなげていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関に掲示している 新聞にのせている 運営推進会議で発表している	○	集まりなどで、積極的にアピールしたい 又、新聞等にも掲げていきたい

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会の行事、作業にもこまめに参加したり、挨拶などする様心がけている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	婦人会、敬老会の方が訪問して下さったり、敬老会、文化祭など参加している	○	2階が空いている時、地域の為に利用してもらいたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者を対象に、自主しておられる方のサークルや、囲碁サークルなど実施している	○	介護教室など開催したい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員に評価に参加してもらい、ミーティングなどで話し合っ、具体的な目標設定し、実行している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において報告はしているが、自由な意見を出してもらうまでにはなっていない。が、定期的な運営推進会議の開催と内容の充実をはかっている		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者にわからない所など相談している	○	市担当者ともっと密に連携をとりたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・研修会に参加したり、又マニュアルを各職員に読んでもらったりしているが、実際に活用できるような支援は出来ていない ・運営推進会議で研修会を実施した	○	権利擁護を関係者と話し合うシステムを作りたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	手引きを皆に目を通してもらうと共に日々の業務の中で常に意識して防止に努めている	○	勉強会など開いてしっかり具体的に話し合いたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容を十分説明すると共に、ゆっくり話を聞く時間を設けている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見を反映できていない	○	利用者の意見をしっかりと聞いていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	おたより、又面会時、又電話などを利用して報告している 面会時などに、よりこまめに家族の方への報告を心掛けている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	投書箱を玄関に設置し、家族会などで意見をお聞きし、ミーティング、連絡帳などで皆に伝え考えてもらっている	○	家族の方との意見交換の場をもっと設けたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの時、意見を聞く時間を設けたり、意見ノートを用意している	○	個別に意見を聞く時間を設けたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	限られた人数の中で時間をずらしたりしながら勤務の調整に努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動が急な事が多く、利用者には迷惑をかけているが柱になる人の異動は少なく安定している		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	講習会、研修会に職員を積極的に受講してもらっている	○	自主研修又、研修報告の充実を計りたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	全国認知症グループホーム協会、その他のネットワークにも所属していて情報の収集に努めている	○	情報をもとに会内に勉強会を波及させたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務時間に配慮してストレスの軽減を計りたいが、職員の適正配置とは言いがたい	○	適性職員の配置と、休養、娯楽の行事に取り組みたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員に平等に接し、機会均等に努めている	○	職員の実績、勤務状況に応じ、ボーナスに反映したい
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前面接をしっかりとって、それを全職員に共有している	○	アセスメントをしっかりとりたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用に至るまでの間も、電話確認等で話を聞く機会を作っているが回数は少ない	○	もっとこまめに連絡をとりたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかりお話を聞いて対応しているが不十分	○	ケアマネージャーとの連携をしっかりとりたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	デイサービスを利用してもらいながら馴染んでいただくよう工夫している		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意な事をお聞きして教えてもらったりしている		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	今までお世話されてきた苦労をねぎらうと共に、お願いできる事はお願いしている		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族と本人の関係を大切にし、関係の修復、橋渡しに努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩やドライブで馴染みの場所へ行ったり、馴染みの人と話しやすい場面作りをしている	○	もっと外出したい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係が出来ていない	○	職員の声かけ、気配りをして利用者同士の関係作りをしたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	時に訪問したり、訪問されたりしているが、時がたつと関係がきれてしまう	○	新聞等、継続的に送付したい

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・おしゃべりの中などから本人の意向を引き出し、それを皆で検討しているが不十分 ・ケアカンファレンスを通して把握に努めている	○	一人ひとりの介護計画を充実させたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	経過記録、個人ファイルを充実させ、皆で共有している	○	アセスメントを充実させたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	よく一人ひとりの状況が理解できるよう職員の質の向上と話し合いを大事にしている 日々個人目標を作って達成に努力している	○	モニタリングをしっかりしたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者を中心にしっかり話し合って介護計画を作成している	○	介護計画をより利用者本位にする様に検討する時間をとりたい
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の評価をしっかりし、それを基に月1回ケアプランが現状に即しているか話し合っている	○	見直しをきちんとしてほしい
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の経過記録をしっかり記入している	○	介護計画にそった個別ケアの記録にしたい

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	デイサービス、又共用型デイサービス、又自主ショートで要望に応じた対応をしている		
----	--	---	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	緊急連絡先に警察に登録させてもらったり、消防との密な連携や、民生委員、公民館、又ボランティアなどの協力を得ている	○	より多くの地域資源をみつけ、積極的に活用したい
----	---	--	---	-------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	居宅介護支援センターとの連携をとっている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員会などで連携をとっている	○	地域包括支援センターとの連携をより深めたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	同意の上で西谷内科と医療連携の契約を結んでいる 又かかりつけ医が理事をされていて連絡が行きやすく速やかに適切な医療が受けられている		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい西谷医師が主治医で、細めに報告、受診している 又主治医が頻繁に当ホームを訪れて利用者を診ている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当ホームの看護職員と西谷内科の看護師が常に健康管理をしている 看護師ノートを作って情報の共有を計っている		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	西谷内科を通じて入院先を決定し、又入院中も連絡をしっかりとっている	○	文書で整理しておきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ターミナルについては契約時、又状況に応じて繰り返し話し合いをしている	○	ターミナルの同意書をかわしておきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状況に応じてかかりつけ医、家族、職員が集まってしっかり話し合っ対応している	○	マニュアル化し、文書を残しておきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	住み替えのケースは少ないが、その時は時間をかけて十分話し合い準備している		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけなど時に不用意な発言がある事があり、その都度、又ミーティングの時に注意している	○	言葉かけ、記録時の言葉づかいなど職員に気をつけるよう話し合い実行したい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	声かけをしっかりとし、ゆっくり待つように話し合っているが不十分である	○	職員の都合を優先しないよう話し合っ徹底したい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそっ支援している。	希望を引き出すよう努力しているが引き出せてないが、個を大切に支援は常に考えている	○	ミーティングなどで話し合っ職員の意識を変えていきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみは気をつけているが、本人の望むものにはなっていない。カットは美容師さんに来てもらっているが希望があったら行くようにしている	○	おしゃべりの中などから本人の好みなど聞きながらおしゃれに気をつけたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の高齢化のため限られているが、少しずつ取り組んでいる	○	もっと積極的に関わっていただく様に声かけ、準備をしたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康に留意しながら支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄パターンを把握し、布パンツを出来るだけ使用するようにしている。個々に応じてトイレ誘導している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯はほぼ決まっているが、希望があれば変更し、無理強いを決してしないようにしている	○	夕方、夜に入浴できるよう考えたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	時々状況を変え、個人の状態を考えながら自由に横になってもらっている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居者の方が、高齢の方が多く、楽しめる内容が限られてきているが出来るだけしてもらっている	○	一人ひとりの楽しみや、やりがいをもっと多く見つけたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があればお金の所持や使うことを支援したいが、希望がない		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	高齢化により外出をおっくうがられ、戸外に出掛けることが少なくなっているため、目標に合わせて楽しく外出するよう支援している	○	もっと頻繁に外出してもらいたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	入居者の希望などを生活歴やおしゃべりの中から聞き出し、それを参考に外出しているが、不十分である	○	外出の楽しさを実感してもらおうよう取り組みたい。いろんな所や少し遠くへも行ってみたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけてもらったり、年賀状を出したりしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問できるよう雰囲気気をつけている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングの時の話し合い、又手引きを皆に読んでもらったり全員認識している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけず、しっかり見守りするよう努力している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個人の体調を把握し、職員同士情報を共有し、しっかり見守りをしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	救急マニュアルの作成とともに日常も話し合っている。研修にも参加し、他の職員にも伝えている		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的な訓練は行っていないが、常に話し合い情報を共有している 転倒ノートを作成している	○	定期的に訓練を行っていききたい (年1～2回)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練は定期的に行っている。地域の方々の協力は得られている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族の方とはしっかり話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的にバイタルを取り、体調の変化に気をつけている。記録申し送りで情報を共有し、西谷内科へすみやかに報告している 看護職員が常に体調に気をつけている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の服薬情報をケース記録にきちんと記録している。又変化のある時も同様にしている	○	定期的に確認していきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分をこまめに摂ってもらい、又食事の内容を気をつけ、体を動かしてもらおうよう努力している 朝、ヨーグルトを食べてもらっている	○	薬にたよらず、飲食物のくふうがしたい 体を動かす働きかけがしたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時、朝、昼、夕、口腔ケアをしっかりしている 歯科医との連携を密にしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士さんの作成された献立表をベースにその時、その人に応じた食事内容、形態に心がけている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染マニュアルがあり、手洗いを徹底している ・インフルエンザ予防接種は入居者、利用者全員している ・手すり、トイレ、風呂の消毒を習慣化している ・お茶でうがいをしてもらっている 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	乾燥機の使用、ハイターの使用など衛生管理をしっかりとしている 手作りを原則とし、新鮮なものを調理し、食べ切るようにしている		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入りやすいように玄関を開放している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音、光、臭いには十分気をつけている。又季節の花や飾りで飾っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子の位置など工夫している。狭いため、一人でゆっくりできる場所が少ない	○	他の人を見ながら一人でゆっくりできるスペースを考えている
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	町の中にあるため居室が狭く、好みの居室になっていないが、居心地よく過ごせるよう職員が気を配っている	○	居室の整備を充実したい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調には十分気をつけている 加湿器を利用したり、乾燥には気をつけている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	設計の段階から十分配慮されている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱し、失敗があればすぐに対応している わかりやすいよう照明、配置にも気をつけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	町の中なので、外周りやベランダへ出るのがむずかしい	○	ベランダへ自由に出られる様に工夫したい